

授業科目名	器質性構音障害学（口唇口蓋裂）	授業形態	講義	配当学期	2年（前期）
担当教員名	熊田 華恵	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	〔授業概要〕 器質性構音障害における口唇口蓋裂について、発生の機序や手術方法・チームアプローチ・特徴・検査・評価・訓練法等について学習する。				
	〔学習目標〕 ①口唇口蓋裂の種類について説明できる。 ②代表的な手術方法について列挙できる。 ③健常者に基本的な構音訓練を実施することができる。 ④健常者に鼻咽腔閉鎖機能検査・訓練を実施することができる。				
授業回数	授業内容				
第 1 回	はじめに 口唇口蓋裂とは（講義）				
第 2 回	発生（講義）				
第 3 回	他の問題を併せ持つ症例（講義）				
第 4 回	手術①（講義・グループワーク）				
第 5 回	手術②（講義・グループワーク）				
第 6 回	異常構音（講義）				
第 7 回	評価①（講義・グループワーク）				
第 8 回	評価②（講義・グループワーク）				
第 9 回	乳児期の言語臨床・家族指導（講義・演習）				
第 10 回	幼児期の言語臨床①構音訓練（講義・演習）				
第 11 回	幼児期の言語臨床②構音訓練（講義・演習）				
第 12 回	幼児期の言語臨床③鼻咽腔閉鎖機能訓練（講義・演習）				
第 13 回	学童期の言語臨床・説明（講義・演習）				
第 14 回	思春期・成人期の言語臨床（講義）				
第 15 回	まとめ				
評価方法	授業態度・提出課題・確認テスト40%、定期試験60%で総合評価する				
教科書 参考図書	〔教科書〕 口蓋裂の言語臨床 第3版 岡崎恵子他編集 医学書院				
	〔参考図書〕 こどもの口唇裂・口蓋裂の治療とケア 大久保文雄編著 メディカ出版				
履修上の 留意点	①授業には遅刻・欠席をすることがないように体調管理に努めること ②授業には教科書を持参すること ③グループで協力すること				
メッセージ	1年生で学習した小児分野や構音障害を背景に、主体的に学習しましょう。				